

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700444		
法人名	特定非営利活動法人いちいがしの里		
事業所名	グループホーム オリーブ	ユニット名	1ユニット
所在地	宮崎県都城市山之口町花木2152-3		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.in/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kihon=true&JizyosyoCd=4571700444-001PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所として、地域の公民館に加入し、一員として積極的に活動し、地域の交流を深めている。また、ホーム内にある畑を利用して野菜等を栽培し、利用者様が活動しやすい環境づくりに努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく介護支援が、利用者に行動意欲や笑顔を、利用者家族には信頼感を与えている。オリーブ便りを通して、利用者の日常生活の様子や職員が各種勉強会等でサービスの質の向上に熱心に取り組む姿勢などを伝え、家族の安心・満足につなげている。利用者が重度化していく中で、バルコニーでの日なたぼっこや車いす利用者も一緒に牧場へ牛乳を買いに出掛けるなど、五感刺激を兼ねて機能の維持向上を図る活動を積極的に支援している。年2回、運営推進会議の委員の協力を得て、消防署、地域消防団による夜間想定災害訓練を実施している。災害発生時に備えて、消火器やヘッドライトなどの非常用機器用品一式や備蓄も整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本方針及び理念を掲げ、毎日の朝礼実施時に全員で唱和し、また、定期的な勉強会にて意識付けをし、理念を基に実践している。		管理者と職員は、毎朝の申し送り時に唱和することで共有し、日ごろの介護・介助の中で理解を深め、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館に加入し、各行事等に参加し、また、運営推進会議委員の協力を得、ボランティア情報等を収集し、訪問していただき、交流を深めている。		公民館行事の参加や弥五郎どん祭り、福祉体験学習を受け入れるなど、地域交流を深めようと努めている。各種ボランティアの積極的な受け入れや避難訓練時の近隣住民の参加協力までには至っていない。	運営推進会議の委員の働きかけで各種ボランティアの来訪を促したり、計画立案中の「がねパーティ」への参加を地域住民にも呼びかけ、交流の機会を増やし、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会主催の地区公民館単位の認知症講習会に講師として参加し、認知症の理解を求め、取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、外部の委員12名(民生委員等6名・行政等3名・地区公民館長2名・家族1名)及び職員6名で構成し、積極的な意見をいただき、サービスの向上に活かしている。		会議には利用者2人も参加し、共用ホールの生活の場で開催している。ホームの運営状況や活動内容、外部評価の受審の結果報告等について意見交換を行い、地域の理解と支援を得て運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村に関係した事案については、その都度各関係課に相談し、協力を得ている。また、市職員が運営推進会議の構成メンバーのため、密接な関わりを持ち、協働関係を築いている。		市主催の研修等には積極的に参加している。運営上の相談や介護保険の情報を得るなど、お互いの顔が見える関係で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、全職員が把握し、担当者会議、モニタリング等で該当する場合、協議をし、拘束なしのケアに努めている。但し、玄関は施錠しているが、リビングからバルコニー・庭には自由に入出入りできるようにしている。		管理者と職員は、身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。バルコニーより外出者が出たため、どんなことが拘束にあたるかなど、拘束をしないケアについて改めて話し合いを深めようとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、年1回、苦情解決セミナー開催時、事例が冊子になっており、その事例をテーマに勉強会を開催し、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立事業をお願いしている方が1名おり、制度は把握できている。今後、支援事業並びに成年後見制度に該当しそうなケースの場合は、速やかにご家族・関係機関と調整し、解決する。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、契約書・重要事項説明書等を説明し、理解・納得していただいている。また、入所中においても、質問等を受け、不安がないよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において、出席者全家族に意見をいただき、また、不定期の面会等で家族とコミュニケーションを図り、意見を引き出すよう努力している。		家族の来訪時には職員から積極的に話しかけたり、オリーブ便りを通して家族とコミュニケーションを図り、気楽に意見や要望が出しやすい雰囲気作りをするよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の勉強会開催時に意見を出し合う議題を提示し、職員が意見を出し合う環境づくりに努力している。		管理者は、常に職員が働きやすく、意見が言いやすい雰囲気作りを心掛けている。職員から「休憩時間を取り入れてほしい」との要望があり、食事休憩を設けるなどして反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の業務状況等を把握し、向上心を持てるような人事考課を実施し、働きやすい環境を創るよう努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の技術・知識等のレベルを上げるため、不定期であるが、内外の研修で機会を設け、取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なグループホーム連絡協議会及び地域包括支援センターの主催する会等に参加し、お互いに情報交換し、サービスの向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当初、相談がある場合には、時間をかけてじっくり本人の話を聞いて、不安等を取り除く努力をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から状況を聞き、現在具体的にどのような思いがあるのかを把握し、適切に対応し、家族との信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様及びご家族等から情報収集し、サービス内容を説明し、段階的な支援を実施している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員とのコミュニケーションの中で、利用者の力を発揮するものを発見し、利用者が目的意識をもって生活できるよう努力している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各担当の職員が、毎月近況を手紙で報告している。面会等で家族が来られた時は、しっかり話を聞き、より良い関係が築けるように努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日に外食の外出を行う。季節の良い時期に、行き付けの場所に行ったり、地元の祭りや花見に出かける支援をしている。	弥五郎どんの祭り、近くの牧場への牛乳買いなど、車いす利用者も一緒に出掛けている。花見や墓参り、信仰の継続支援など、本人が望むなじみの人や場所との関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないよう、頻繁に声掛けで支援し、日中は全員がゲームなどに参加出来るような配慮をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様・ご家族に説明してフォローする旨を伝えている。必要な情報等は次の事業者へ提供し、継続が必要なものは配慮して貰えるよう依頼している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族の要望・希望を聞き、意向を把握し、難聴者の利用者様に筆談したり、しぐさでトイレ誘導したりして、その人らしい生活を支援している。	職員は利用者に寄り添い、居室において1対1の会話や入浴時、散歩時に語り掛けるなど、表情やしぐさを観察して汲み取っている。また、ボードを使用し、筆談で会話するなど、一人ひとりに合った対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族より情報を聞き取り、プライバシーに気を付け、課題解決に努力しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの個別サービスや入浴時に身体チェックを行い、個々の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族を交えて担当者会議を行い、情報を得、ケアのあり方を作成している。参加困難なご家族には、電話での意見や希望を聞いている。	利用者や家族の意向を基に、関係者が参加するサービス担当者会議、ケアカンファレンス、モニタリングを定期的実施している。それぞれの意見や提案を反映し、状態変化に応じた随時の見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動を基本に、個々の日課を記録しており、そこで、ケアについての気づき等がある場合、勉強会で検討し、介護計画の見直しまでしているケースもある。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様及びご家族のために、基本サービスは勿論のこと、その状況等により、柔軟な支援を行うよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員・理・美容院・ボランティア等の定期的な訪問等があり、地域資源を活用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、利用者様及びご家族から主治医の希望を聞き、継続的に安心した医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は利用者や家族が希望するなじみの医療機関となっている。受診は家族対応となっているが、困難な利用者に対しては代行し、情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康状態を把握し、また、定期的な看護師の訪問により、健康管理チェックをしている。そこで状態変化に気づいた場合は早期の対処をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、利用者様及びご家族との連携を密にし、精神的な負担を軽減するため話し合いの場を設け、支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化についての指針を説明し、利用者さま及びご家族からの意向を確認している。また、段階的な説明も実施しながら支援している。	重度化や終末期のあり方について、ホームができることを本人と家族に丁寧に説明している。訪問看護ステーションや医療関係機関とも連携し、状態変化に応じて家族、職員と話し合いながら対応方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、定期的に外部から講師を招き、実際の訓練を実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民及び関係機関の協力により、定期的な訓練を2回実施し、災害の発生に備えている。また、食料品等も準備してある。	年2回、運営推進会議の委員の協力を得て、消防署、地元消防団による夜間想定訓練を実施している。災害発生時に備えて、消火器等の非常用機器用品一式や備蓄も整備している。夜勤者の介護日誌には、コンセントやスイッチの確認などを細やかに記録し、災害対策に向け取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新たな職員採用時、プライバシーの重要性について説明し、また、定期的な勉強会で協議事項に関連づけて確認している。		職員は、入社時にプライバシーの保護や倫理規定の研修を受け、定期的な勉強会や毎日の申し送りで共有し、その人に応じた言葉かけをするなど、一人ひとりの尊厳を守る接遇や対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の希望を取り入れ、また、利用者様が選択できるように環境を創り、取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様から訴えがある時は耳を傾け、一人ひとりのペースに合わせて出来るだけ希望に沿って支援している。利用者様から依頼が重なった場合は優先順を決めて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着たものは洗濯し、着る物は利用者様が決められたもの、又は動きやすく、その時期に合った物を着て頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が好む物を提供し、また、色彩等も食欲をそそるような工夫をし、支援している。不定期であるが、外部から弁当を購入し、食事を楽しんでいただいている。		職員は、利用者の個々の能力に合わせて盛り付けや食器洗いを役割として日常的に行ってもらっている。食事を全品盛り合わせしたトレー兼食器を使用し、職員が見守り・介助を行っている。近いうちに利用者や家族、運営推進会議の委員も一緒に参加してもらう「がねパーティ」のお楽しみ企画を検討中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、観察記録シートに食事量・水分量を記録し、個々に状態を把握している。また、食器等も定期的に変更している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識し、食後、毎回口腔ケアは実施している。また、拒否がある場合は、時間をおいて声かけ誘導し、工夫している。			

宮崎県都城市 グループホームオリーブ(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、利用者様全員、定時にトイレに誘導し、排泄の支援を行っており、身体機能の向上に努力している。		利用者一人ひとりの排せつパターン、習慣を把握し、失敗を減らすと同時に、羞恥心に配慮した早めの声掛けや見守りで、利用者のトイレでの自立に向けた排せつの支援をしている。排せつ物チェックもするなど、健康観察もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便は個々にチェックしており、かかりつけ医の処方により、便秘薬は定期的に与薬している。また、リハビリ体操を日課に組み入れて運動し、対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に、週3回入浴していただいているが、その日の体調等を鑑み、決まった日以外にも利用者に合わせて、無理強いすることなく、快適に入浴していただけるように支援している。		入浴は週3回としているが、利用者の希望、タイミング、体調に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間帯や入浴日を変更するなどの工夫をしている。状態に合わせてシャワー浴、清拭、足浴などにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中については1日のスケジュールが決まっているが、その日の体調等を考慮し、本人に合わせた安眠・休息の支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し、飲み忘れ・誤薬を防ぐため、薬の管理は独自で管理している。また、協力医療機関との連携により、治療や服薬調整に活かしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者様の出来る役割(洗濯物干し・たたみ、食器洗い、テーブル拭き、モップ掛け)を担ってもらっています。また、レクリエーション事のゴッタン弾き、男性には晩酌を提供し、支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週火曜日・金曜日は近くの牧場に牛乳を買いに行き、誕生祝いの外食、お墓参り等を支援しています。気候の良い時期は広い園庭でのんびりして頂いています。		利用者が重度化しつつある中で、バルコニーでの日向ぼっこや庭園の散歩、花見や牛乳買いなど、気分転換を兼ねて筋力の維持向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を家族より預かり、「小遣い帳」で管理しています。入所者様から買い物の希望があった場合は家族に相談し、お小遣いから出金し、衣類や食べ物を買う支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は利用者様の依頼により支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた生活が送れるように音楽を鑑賞されたり、テーブルに花を飾ったりして季節感を感じて頂いている。また、台所がリビングと対面になっているため、食事を準備する場面が見えており、料理の匂い・材料を切る音等もあり、五感を活かしながら生活している。	季節の花がさりげなく生けられたダイニングルームの横に、テレビを囲むようにソファが設置されており、テレビを視聴する人、一人でのんびりくつろぐ人の姿が見られる。明るく通風、温・湿度も体感に応じて調整されており、清潔保持もなされている。生活感、季節感を取り入れた居心地よい空間となるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用できるスペース(畳に間、バルコニー等)があり、快適な生活が出来るように工夫しています。利用者様の立場を考え、穏やかに暮らせるように支援しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族に相談して使い慣れた物を使用して頂いている。写真や花などを居室に持参され、飾っていただき、居心地の良い住み慣れた空間を醸し出す工夫している。	使い慣れたなじみの物を持ち込み、家族の写真や作品、自慢の馬の絵を壁に貼るなど、その人の個性に合った部屋づくりとなるよう努めている。どの部屋もエアコンが設置されており、清潔で安全に配慮した居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る事は積極的に行うように支援しています。混乱しそうな事については事前に説明し、安全で事故のないよう努めています。			